



## ●体温>放熱=防寒

冬コミでの寒さ対策は、長時間に及びかねない待機時間を通して、体温をいかに奪われないかにかかっている。その大敵となるのが、冬の関東地方特有の冷たく乾燥した空気と、それが吹き付けてくる寒風だ。屋外で待機する一般参加者はもちろん、ホール内でもシャッター付近に配置されたサークルの参加者は、会期中の多くの時間を寒風に耐えて（陽光が無い分、ホール内の方が屋外より風がこたえる、という説もある）過ごさねばならない。

冷たい空気や風は、皮膚の表面から、あるいは呼吸するだけでも体内から直接体温を（呼吸について言えば体内の水分も）奪っていく。また、冷え切った地面に立ったり座ったりしていれば、接地面からもどんどん体温は奪われていく。つまりは、この収奪をできるだけ少なく抑えることができれば、あなたの体温はかなり守られるということである。

●頭・耳&顔面・首周り・手首・足首・腰など、外気に接する部分は待機中は薄手のものでよいので可能な限りカバーしておこう。また、長時間の待機中はマスクをしておくことで冷たい空気を吸わずに済むだけでなく、埃と乾燥から喉を護ることができて、インフルエンザの予防にも一定の効果が得られる。

帽子・マフラーやネックウォーマー・ひざ掛けやストール・耳当て・手袋・腹巻き・マスク

●ホール内でシャッター近くに配置されたサークル参加者はとにかく保温性に優れた上下セットのロングアンダーウェアと足元からの冷えを防ぐ厚手の靴下を着用しよう（でないとホール内でも上着が脱げないことになりかねない）。首周りから体温が奪われるのを防ぐため、ハイネックタイプがオススメ。

速乾繊維製保温アンダーウェア上下・膝丈の長め、厚手の非綿素材製靴下

●地面に直接座って待機する一般参加者、パイプイスに座り続けるサークル参加者共に、イスや座布団になる物を用意しよう。地面や座面との間に断熱材が1枚入るだけでも、かなり腰の冷えが緩和される。また、ひざ掛けや薄手のブランケットもあるとなお良い。また、スカートを履く参加者は防寒・ケガ防止・日焼け防止などの観点から素足を避け、厚手のタイツ類を着用しよう。

携帯用座布団・エアクッション・折り畳みイス



## ●活動一汗=快適

コミケットの場合、一部の会期時間内に少しでも多くのサークルを回りたい参加者、一部の非常に人気のあるジャンルを当てとする参加者にとっては、真冬でも汗だくなる可能性があるのが特徴である。そうでなくても、往々にして会場に至る地下鉄やバスの車内は混み合っており暑く、分厚い上着を後悔する羽目に陥ることも珍しくない。

冬の汗の影響は夏以上にシリアスで、どんなに暖かい防寒着を着ていても、一番内側が汗に濡れてしまうと逆に上着のせいで汗がなかなか乾かず、どんどん身体が冷えてしまうことになる。

防寒の要は、分厚い上着ではなく、汗をかいても身体を冷やさず、乾きやすいインナーなのだ。

●肌を全体的に機能性インナーで覆い、上に着る服は全体的に薄めにして汗をかいた時の風通しをよくした方がよい。

●その分、上着は薄手でも防風に優れ、首周り、手首廻りなどをしっかり閉めることができ保温性の高いものを選ぼう。待機時はきちんと着込み、活動時は前を開けるといった使い訳で服の中に汗の湿度がこもらないようにすると良い。また、冬でも汗拭きタオルは用意しておき、汗をかいたらすぐに拭く習慣を持とう。

●見落としがちだが、汗をかくのは足も一緒である。靴下が汗で濡れてしまうと、立ち止まった時に足が急激に冷えてツライので、綿ではなく、ウールや化繊製の厚手で水分を溜め込まない性能を持った靴下や靴の中をドライに保てる中敷きなどを活用しよう。途中休憩時に一回靴を脱ぎ、中の湿気を飛ばしながら新しい乾いた靴下に履き替えるのがベストだ。

